

窓口支援事例 【三重県 知財総合支援窓口】 平成29年度版

企業情報

有限会社コットンライフ

所在地	三重県松阪市		
ホームページURL	http://matsusakamomen.com/		
設立年	1988年	業種	卸・小売業
従業員数	4人	資本金	320万円

企業概要

当社は、三重県松阪市の伝統産業である「松阪木綿」を守ろうという強い思いのもとに設立され、「松阪もめん手織りセンター」として手織り技能者の育成と商品開発販売を行っています。

当社の松阪木綿製品の品揃えは全国でもトップとなっています。



自社の強み

松阪木綿は、元となる糸を藍染してから織る先染め糸を採用しています。これにより、糸が丈夫になり、織り布は柔らかさを保ちながらも強さが増し、いつまでも鮮やかな風合いを楽しんで頂けます。

松阪木綿には素材の良さに加え、江戸時代から松坂縞として人気を博した独特の模様があります。近年では同手織りセンターでの機織り技能者の育成に伴い、若い技術者たちによる斬新な模様も生み出されています。

また、名古屋モード学園との産学連携の取組みで、松阪木綿の特質、伝統的デザインの文様と若い人たちの感性を活かしたバッグ、小物、街着などの製品群が生まれつつあります。



一押し商品

当社の一押し商品は、松坂木綿を使用した各種製品です。

いずれの商品も、松阪木綿の藍染による味わいのある青をベースとした素材を活かした商品で、飽きがこないで長く使って頂くことができます。

左上：ペアルックシャツ、右上：トートバッグ、
左下：名古屋モード学園学生デザインのTシャツ、右下：ネクタイ



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

公益財団法人三重県産業支援センターの助成金交付内定者説明会において、知的財産への配慮の必要性を説明したのをきっかけに同社を訪問し、ヒヤリングをさせていただいたところ、名古屋モード学園と産学連携による商品開発を始めようとされていることが分かりました。他者との協業においては、契約の段階でお互いの目的や役割を十分に確認することが重要であり、協業に関する契約初について支援しました。

最初の相談概要

当初示された協業に関する契約書案は、名古屋モード学園によって従来から使われていた標準的な内容のものでしたが、長くにわたり良好な関係を維持しながら協業するためには、双方の考えを十分に確認し合うことが必要と考え、できる限り公平な内容となる契約書案を同社と共に煮詰め、名古屋モード学園側に提案することとしました。

その後の相談概要

数回にわたり相談者と支援担当者で意見交換し、案文を取りまとめた内容を名古屋モード学園側に提示し、大きな修正点もなく、了解を得ることができました。

同学園との共同開発は契約文書の準備と並行して進められ、締結前から意見交換することで役割分担や納期意識が高まっており、予定通りの日程で完了しました。

開発成果は松阪市内で開かれた「松阪もめんフェスティバル」で発表され、画期的な取り組みとして大きく報道されました。この成功により、次年度以降も協業は継続されることとなり、街着として使えるような「野良着」や小物類の開発にも取り組まれています。また、開発製品は名古屋市内のファッショビルや老舗百貨店で発表・販売の機会も検討されています。

窓口を活用して変わったところ

協業相手との契約内容を突き詰めたことで、役割・責任分担が明確になったと共に、目標が明確になり、計画の遂行にメリハリができ、効率的に業務が進捗しているように感じられます。同社の経営体質強化が一歩前進したと考えます。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

専門家の目を通して事業の進め方について助言して頂いたことで、目先のことに追われて、大切なことを後回しにしていたことが沢山あることに気付かされました。窓口においては、特許や商標の出願だけではなく、幅広く助言して頂けるので、遠慮なくご相談されることをお勧めします。

窓口担当者から一言（氏名：村上 一仁）



若い力を活かして伝統産業を復活させたい、という強い情熱を感じながら助言させて頂きました。助言に対してはその意味をしっかりと理解しようとされ、納得して着実に実行するという姿勢が見られ、結果として協業パートナーとの信頼関係が構築でき、次の年度の活動に繋がったものと考えます。